

この春、厚生労働省に
入省された8名の方が、
ふる里学舎・ふる里学舎
和田浦に3泊4日で研修
に来られました。研修を
終えた直後に感想を寄
せて頂きましたので、ご紹
介させていただきます。

ふる里学舎の4日間では、障害者の方の日常生活、社会背景を
実感し、施設や職員の方々の福
祉に関するポリシー、こだわ
りに驚き、これから自分が障害者
福祉、ひいては保障制度を考え
ていく上で、大きな糧となりま
した。

施設利用者は日中、園芸、農耕、
パン作りといった、個人個人に適
した生産活動をしている。彼らが
社会に対して物事を考える数少
ない機会であり、また日々の生活
リズムを作る上でも、そういった
生産活動がいかに重要かという
ことを知りました。仲良くなった
利用者の一人



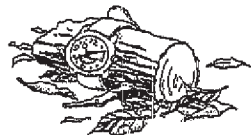
は、カードゲー
ムと漫画が好
きで、麻生総理
と漫画の話が
したいと心温
まる夢を語っ
てくれました。
彼らが持つ障
害を、障害と感
ぜずに平和な
毎日を過ごして行けるような環
境を整えていきたいと思いまし
た。

施設はとてきれいで、快適で
した。部屋は出来る限り多く光り
が取り込めるよう大きな窓で、利
用者が怪我をしないよう強化ガ
ラスを使用する、そのこだわりの
は本当に驚きました。また、食事
は利用者の大きな喜びだからと
いって、外注せず法人独自にお
いしい食事を提供しており、利用者
を第一に考える姿勢を素直にし

く感じました。自分に障害を持っ
子どもが出来たら、是非ふる里学
舎のお世話になりたいと思いま
した。

現在(医療の発展に伴い)障害
者の数が増え、施設利用の
ニーズは増える一方です。そのよ
うな状況の中で我々行政側として
は、障害者の方々が生涯安心して
暮らせる環境を作りたいと思いま
す。ここにきては、正直なところ
「民間が社会福祉に携わると、
効率性を考えるあまり質の低下が
起こるのでは」と思っていました。
しかし、崇高な理念の下、拡大し
ていくふる里学舎で研修して、質
の高い社会福祉法人が増え、質
のよい施設が増え、自分も施設
増加に貢献したいと思えます。
この度は、貴重な機会を頂きま
して誠にありがとうございました。

谷村 忠幸



実習や食事を通して施設の入所
者の方と触れ合って、気を遣い
ざる必要もないと思えました。実
習に来るまでは、どういふ風に
わかれ良いのか分からず不安で
したが、普通に会話をし、一緒に食
事を摂れば大丈夫だということ
が、自分の中でぐく大きな発見で
した。また、職員の方がすごく楽
そうに仕事をされていたのが印象
的でした。

職員の方との交流を通して、

休み時間や懇談会で職員の方と
話をし、上述しましたが「楽し

そうに仕事をされているなあ」と
いう印象を受けました。本来、大
変であろう入所者の方の介護など
も、笑顔で行われていて単純にす
ごいと思いました。

〜雑感〜

4日間という短い時間でしたが、
大変多くのことを考え、学ぶこと
のできた非常に貴重な経験だった
と思います。右で書いたようなこ
とや、施設としての立場から現在
の施設の問題点や他の施設との比
較、また厚生労働行政に対する意
見を伺うことができた、この経験を
何とか今後働く上で政策などに活
かしていけたらと思います。

お話を伺って特に印象に残った
のは、施設が好きな障害者の方も
いるということでした。私はこれ
まで「閉じ込められるのは嫌だ
な」と考えており、また国の政策
としても自立して生活することが
望まれていたのですが、障害者の方
もそのように思っているのだらう
と考えていました。しかし、そうで
はない人もいることに大きなギャ
ップを感じました。「現場の大切
さ」を実際に肌で感じることで
き、非常に有意義な時間を過ごす
ことができました。



最後になりましたが、この度は
こういった貴重な経験をさせてい
ただき、本当にありがとうございました。
この4日間の経験を忘れ
ずに、この先頑張りたいと思いま
す。またどこかでお会いする日を
楽しみにしております。

吉永 佳太

「お接待」

今から10年以上も前、高校2
年で進路を考える時期にさしか
かった頃。このままだとお前の未来
はないぞ!」とわれわれが焦
った数日後、もう勉強はしたくな
いのので働きまわると、暇を
覚悟で部活の顧問に話した。こ
「働きまわっておまえは何を
いんだ。浅はかな理由なら、頑
張って進学してから、考えたほう
がいいんじゃないか」と意外な答
えが返ってきた。単純な私はすぐ
進路指導室に行き、その後、大学
に進学した。

こんなことを書くのと親に合わせ
る顔がないが、大学生生活はアル
バイト三昧で、魚市場、洗車、血洗
い、ビザの配達とどれも長続きせ
ず、様々な仕事を経験した。稼い
だ金は、映画を観たり友達と酒を
飲んだり、貯金は0円であった。
そんなアルバイトの中でも運送
屋の仕事は、若い男ばかりの職場
で居心地がよく、毎日トラックに
乗って違う現場に向うことが性に
合ったようだ。結局大学生生活で
りた仕事を見つけた事は出来ず
にそのまま運送屋に居座ってしま
った。しかし、居心地の良い職場
も、社員待ちは契約社員が多く
しめき合い、アルバイトの私が正
社員になるのは、気が遠くなるよ
うな年月を要さなければならな
かった。当然であるが、額を合わせ
るたびに母からは「早く人並みに
働いてほしい」と耳にタコが出来
るほど言われた。人生で2度目の焦
りを感じた。

そんなある日、本屋で写真がき
れいだなと手に取った本が「ル
ド88」という四国88箇所巡礼
の本であった。インタビューに答
えている大半が若者で、中には女
性がいたことに驚いた。中には
宿が出来るポイントが多くあると

掲載されていた事にも抽車がか
り、信仰はないが若いうちに一度
はいいかと、またもや単純な私は、
翌日に40リットルのザックとシ
ュラフを買って、徳島行きの夜
行バスのチケットを購入した。母
に、「四国に行く事にした」と伝え
ると愕然とし、もう何も言わな
くなっていった。



徳島県からスタートし、香川
までを49日ほどで1周した。本
に書いてあった通り、四国の人
みんな温かかった。お接待とい
う他人に無償で何かを施す事で
分り、徳島県で何をかという風習
が残っており、食べ物ももたら
し、時には泊めてもらう事もあった。
意外に自分でもタフだなと感じた
のが、野宿も苦にならなかった事
だ。お金もあまり持っていないな
た事もありその殆どが公園や東
屋、橋の下などで寝起きした。

四国での旅を終えた後、親友が
大阪で仕事をしていたため会いに
行く事にしたが、途中地下鉄の中
で小学生に「兄ちゃんはお人か
」と聞かれたほど肌は真っ黒で、毎
日炎天下の下40キロから60キ
ロ歩いていたので、体重も60キ
ロをきっていた。四国を周った事
でたくさん地元の人や同じ様に
旅をしている人と接点を持てたこ
とで考えさせられ、次は人と人
との関わりが密な職場で働きたい
と考えた。今となっては笑い話だが、
四国から戻った後、職業安定所
に求人を探しに行くと「知的障害
者更生施設 支援員」という職業
が目に入り、早速面接を受けに
行った。今となっては笑い話だが、
「初めて施設を案内した時は、真
っ黒で汚らしく、年齢不詳だった。
決して理事長の好みのタイプでは
ない」というのが面接をした幹部
職員の第一印象だったようだ。



ふる里学舎にお世話になり早く
も5年が経過した。和田浦にお
いて工芸科と自立訓練事業を担
う利用者の支援をする共に野菜
や木工製品を製作している。今
までの福祉の経験が無く、たく
さんの利用者、保護者と関わり
日々勉強になる一方、時には悩
む事もある。今年の辞令交付
で里見理事長から新任職員に
向けて、「自分自身で責任を
持つ職業に就くには、自分
の職業に誇りを持っていく事
だ。また我慢する事も大事なの
ではないか」との話を聞いた時、
気持ち少し軽くなった。市原
と田浦、東京と事業が拡張
する中、これからはたくさん
の人にお接待をしていき
たいと思う。

(ふる里学舎和田浦
支援員 嶋田 幸)

編集後記



新年度を迎え、昨年の反省を活
かし「さあスタート」と意気込
んでいた矢先の部署の異動…。新人
職員になったかのように、先輩職員
から細かく業務内容の説明を受け
る。気が付けば、あっという間に2ヶ
月が過ぎた。
そんな私と同じような境遇の方も
多かったのではないだろうか。しか
し、大変!忙しい!といつてもネ
ガティブに考えてもらいたくない。日
が過ぎてしまえばなんとかなるもの
で…。日々明るく元気に過ごして
いきたいものです。
初夏のさわやかな風とともに佐啓
六十九号をお届けします。
越川 直人